

## 【多久市教育委員会】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、様々な教育活動を展開しているところである。本市においては、「自らの生活を創造することができる児童生徒の育成」を目指し、Society5.0等DXの進展が進むこれからの時代において、デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、近未来スマート社会を生き抜くための資質能力（デジタルシチズンシップ）の醸成を図っていく。

目指す学びの姿は、次の3点である。

- ① 自分の考えを持ちつつ、考え方や価値観の異なる人々とも話し合いで解決につなげる学び
- ② 企画立案を含め、協働で物事を成し遂げることができる学び
- ③ 柔軟な発想を生かし、情報を組み合わせながら、新しいものの見方や考え方を生み出す学び

これらの学びを構築できるよう、クラウドシステムの積極的な利活用を通して、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク、電子黒板といった学習環境等、関連の整備充実を図る。

また、情報活用能力の育成を図るための体系的な学習活動の展開・充実、スキルの習得や論理的思考力を身につけるための学習活動の計画的な実施を進める。

本市においては、設置している義務教育学校の特性を生かし、義務教育9年間を見通した取組を推進し、子どもたちそれぞれの個性や天分を伸ばし、Well-beingな生き方を可能にする活動を展開していく。

#### 2. GIGA第1期の総括

##### （1）現状

平成30年に各学校ではパブリッククラウドの運用を開始し、ネットワークの環境整備、高速プリンタの配置を行った。令和2年には、GIGAスクール構想による一人一台端末の配置を完了し、ICT環境の充実を図ってきた。

さらに、家庭での端末活用を推進するため、端末の家庭への持ち帰りや通信環境整備のための補助等を行ってきた。

現状として、端末を活用した様々な学習活動が可能となり、情報活用は着実に歩を進めている。これは、長らくICT環境に係る整備を計画的に進め、学習活動においてどのような活用ができるかを検討してきた成果として捉えている。

また、本市では子どもたちに身につけてほしい資質能力を育む授業スタイルを提案・展開しており、指導法の改善につなげたり、教育データの効果的な活用を模索したりしているところである。

一方で、家庭における端末の活用、端末の普段使いとしての状況には、改善の余地が大いにある。学校での学びを広げられるように、児童生徒自らが、進んで端末を利用できる状況につなげる手立てが必要である。

## (2) 課題

### ●教育データの活用

端末の利活用が進む中、様々な教育データが蓄積されていく。そういった教育データを十分に活用できているか、という点では、今後の研究が重要である。教育データとして、どのような内容が収集され、教育活動に展開できるのかを検討する必要がある。

### ●個別最適な学習に向けた端末活用

家庭学習の推進、基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、各学校の実情を考慮してデジタルドリルを採用・活用している。しかし、児童生徒の学習状況に合わせて取組が進められているかといえば、改善の余地がある。

### ●授業改善に向けた教職員の資質能力の向上

ここ数年、本市の教職員はICT環境にも慣れ、様々な場面で活用している実態がある。一方、授業場面に着目すると、児童生徒の個別最適な学習、協働的な学習につなげるような利活用については、さらに研究に取り組む必要がある。授業改善と共に、教師の指導力向上が求められている。

## 3. 1人1台端末の利活用方策

### (1) 解決策

児童生徒が、進んで1人1台の端末を活用して学習に取り組む姿を引き出し、主体的な学びを展開し、考え、問い続ける子どもたちの姿につなげられるよう、以下の取組を進めていく。

- ・1人1台端末を活用して得られる様々な情報を整理し、教育データの活用方法について、必要な研修を実施していく。また、各校に配置しているICT支援員と協働し、学習内容の充実、教師の校務の効率を図っていく。
- ・家庭学習の推進を図るため、端末を活用した様々な取組を児童生徒に提示し、情報収集して、意欲的に取り組めるようなコンテンツ等を提供していく。また、デジタルドリルの取組として、AIドリルを積極的に活用し、個に応じた学習が進められるようにする。
- ・各校で取り組む校内研修を中心に据えながらICT研修を実施し、授業改善につなげる取組を推進する。また、児童生徒の活動においては、身につけさせたい資質や能力を育む学習場面を共通して設定し、学習課題や各種教材の共有化を図る。

また、本市においては、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒の学びを保障するために、1人1台端末の有効活用を検討し、適切な支援体制を充実させていく。加え

て、疾病や天候による臨時休業や学級閉鎖の措置をとった際にも、児童生徒の学びを止めない取組を展開できるよう、引き続き体制整備を図っていく。